

SHIBUKAWA HARUMI AND
THE SUCCEEDING ASTRONOMERS
OF THE EDO PERIOD

渋川春海と
江戸時代の
天文学者たち

日本の科学者技術者展シリーズ第11回

2015年 2016年
12/19 (土) ~ 3/6 (日)

国立科学博物館 (東京・上野公園)
日本館1階企画展示室

開館時間 / 午前9時～午後5時(金曜日は午後8時まで)
※入館は各閉館時刻の30分前まで

休館日 / 毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は火曜日)
12月28日(月)～1月1日(金・祝) ※ただし1月4日(月)は開館

入館料 / 一般・大学生620円(団体310円)
高校生以下および65歳以上無料 ※団体は20名以上

主催 / 国立科学博物館

後援 / 日本天文学会、日本科学史学会

 国立科学博物館
National Museum of Nature and Science

日本の科学者技術者展シリーズ
渋川春海没後 300年

渋川春海と江戸時代の天文学者たち

今年日本で最初の天文学者ともいわれる渋川春海(1639-1715)が亡くなって300年にあたります。渋川春海は自らの天体観測に基づいた日本で初めての独自の暦を作成し、平安時代から800年以上用いられ、ずれの生じていた暦を新しくして、幕府の初代天文方に任命されました。

本展ではさまざまな努力の末に改暦を行った渋川春海の業績、人物像とともに、その流れを継ぐ江戸時代中後期の天文学者たちについて紹介します。

ZONE 1 渋川春海とその時代

江戸時代以前の日本は、中国の天文学を基本としていました。渋川春海は夜空の星を実際に観測し、その上に独自の天文学を築いていきました。彼が天体観測を行った理由の一つは平安時代に採用された中国の暦のずれを正すことでしたが、それには保科正之、徳川光圀など、さまざまな人々との親交が大ききな力となりました。

上) 渋川春海像(天文大意録) 個人蔵
下) 天文分野之図(部分) 個人蔵



ZONE 2 天文学者 徳川吉宗

享保の改革などで有名な徳川幕府第8代将軍吉宗(1684-1751)は科学技術に関心が高く、禁書令を緩和するだけでなく、天体望遠鏡や天文台を作り、自身も天体観測を行っていたことが知られています。

近年発見された関連史料とともに、江戸時代の観測機器や天文台について紹介します。

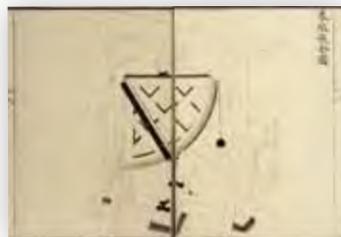
江戸城吹上御庭図(部分) 個人蔵



ZONE 3 高橋至時と市井の天文学者たち

江戸時代中期の市民の文化水準の高さを示す証しの一つとして、大坂の天文学者たちの存在があります。西洋の天文学を取り入れ、新しい観測機器を製作して精度の高い観測を行った彼らは、幕府に招かれ、江戸時代の天文学を大きく発展させました。

象限儀(寛政暦書) 国立天文台蔵



ZONE 4 高橋景保と渋川景佑

高橋至時(1764-1804)の子、高橋景保(1785-1829)と渋川景佑(1787-1856?)の兄弟は、江戸時代の後期、蛮書和解御用を設け、オランダ語で書かれた天文学書を直接学んで得られた知識にもとづいて、世界でもっとも精緻な太陰太陽暦といわれる天保暦を完成させるとともに、さまざまな天体の観測を行いました。

彗星測量簿 国立天文台蔵



2/6
(土)

講演会(定員100名)

13:30~15:00

江戸の天文暦学者
澁川春海の学問と思想
川和田 晶子(広島大学)

15:15~16:15

西洋天文学の流入と幕府天文方
嘉数 次人(大阪市立科学館)

※申込み方法等詳細はHPをご覧ください。

交通ガイド

- JR 「上野駅」公園口から徒歩5分
 - 東京メトロ 銀座線・日比谷線 「上野駅」から徒歩10分
 - 京成電鉄 「京成上野駅」から徒歩10分
- ※駐車場はありませんので、お車の来館はご遠慮ください。



国立科学博物館
National Museum of Nature and Science
〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20
TEL/入ロ-ダイヤル: 03-5777-8600 <http://www.kahaku.go.jp/>

国立科学博物館
モバイルサイト

